

### 水 楽しい教室

忘れられないのは東京の黒区立藤井小学校で6年の担任だった斎藤道子先生ですね。当時、50歳前後でした。

僕はクラスの随分遅い。父が毎日新聞の特設員で海外生活が多く、小も帰国した時、日本語がろくにしゃべれず、勉強もまったくできない。日本の教科書を読んでもよく、クラスでは外国人のような感じでした。

小1の時はお水トン、小1、5はワイオンとジュネープ。無類だった現地校に行かされたから、英語の後、ワイオンではドイツ語を必死で覚えながら、1年後にはフランス語。どきどきも聞かせなくていいから、めんどくさい。授業もわからない。小学校は半分行ってないようなものでした。

僕は言葉と勉強だけでなく、態度も悪かった。先生は手を焼いたと頷きますよ。成績は5段階の1、2、3ばかり。ところが、2学期の通信簿で理科に「5」がついていてびっくり。選んだ校、「1」が打聞かなくて済んだと聞いて喜んでいた。

先生は「3」の「3」を「3」



### ことわざ英語塾

問題 に入る単語は



A friend in need is a friend \_\_\_\_\_.

ヒント：地獄で仏に会ったよう  
\* \* \*  
答え：indeed(本当に)。困った時の友が真の友。同様の意味で、“An oasis in the desert.”(砂漠の中のオアシス)という言い方もあるよ。

監修・小澤アサミ

### 私の先生

森永卓郎さん  
経済アナリスト

## 記念の「5」でやる気に

もりなが・たくろう「1980年、東京府生まれ。東京大学経済学部卒業。日本野村証券、経済企画院、三井物産研究所、三菱UFJリサーチ&コンサルティング各社を経て、2010年から編集長を務める経済学雑誌『東洋経済』の編集長を兼任。『東洋経済』の編集長時代に『東洋経済』を『東洋経済』から『東洋経済』へと改名させた。

なかつた子をやる気にさせてくれた。昔の先生にはこのくらい、の感謝ができたんですね。

全員で正しい立ち方を作文に書いた時、先生が僕の作文に入ってくれた。先生の前で読ませたこともありません。人生で評価されたことになつた僕が、「おれって文才あるじゃん」と勉強する気がなつた。叱られたら、おれは、生き方や勉強する姿勢を教えてもらったと思います。

(聞き手・藤原智子)



吉岡和隆撮影